



松北だより「笑顔」

第43号

平成28年11月10日(木)

本年度の松ヶ江北小学校みんなの合言葉

【あいさつ・そうじ・時間のけじめ】

【やる気・本気・根気】

11月 しっかり聴き、じっくり考え、質問もして、自分の
思いもはっきり伝える…そんな、本気の勉強をしよう

生活科って…

平成2～3年度頃の試行期間を経て、平成4年度に本格実施となった、小学校1・2年における新教科です。(といっても、もう20年以上が経過していますので、あまり新しいとは言えませんが…)

このとき、1・2年における社会科と理科が廃止になりました。

総合的な学習の時間って…

平成10～13年度頃の試行期間を経て、平成14年度に本格実施となった、小学校3～6年における新しい学習の時間です。そのねらいは、端的に言えば、問題解決力の育成ですが、教科書もなく、どのような内容を取り扱うかは、各学校に任せられています。

いわゆる「ゆとり教育」の象徴のように言われることもありましたが、実は、国語や算数などの学力との相関が高いことが証明されてきています。

少し硬い表現になりますが、小学校学習指導要領には、それぞれの目標が以下のように示されています。

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

そして今回、1～6年の全6学級の生活科や総合的な学習の時間の授業公開を中心とした以下のような研究大会を、松ヶ江北小学校にて開催いたします。

11月22日(火) 第23回福岡県小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会北九州市大会

当日配布する要項(冊子)の中で、次のような考え方を示す予定です。また、「おわりに」では、

このような思いも綴りたいなあと考えています。

松ヶ江北小学校では、「子どもが本気で取り組む」という、この一点に絞って、生活科・総合的な学習の時間の授業づくりに取り組んできたところです。生活科や総合的な学習の時間がねらうような、問題解決の力やその素地を子どもたちに身に付けさせるためには、子どもが本気で問題解決に取り組むことが必要不可欠な大前提であると考えています。

なぜならば、目指すところは知識の獲得ではなく、自ら意欲的に取り組んだ問題解決の過程においてのみ味わうことのできる達成感や挫折感、試行錯誤の苦しみや喜びなどの感得であるからです。これらは教え込むものではありません。感じさせるしかないので。そのためには、本気にさせる必要があると考えています。

【子どもが本気で取り組むとは】

- ・ 自ら進んで、喜んで、楽しそうに、うれしそうに、意欲的に、・・・活動すること。
- ・ よく考えながら、試行錯誤を繰り返しながら、自分なりの答えを求めながら、・・・活動すること。
- ・ 他者を思いやりながら、他者と協力しながら、自分自身や他者の頑張りや成長を感じながら、・・・活動すること。



生活科の時間になると輝きや存在感を増す子どもがいます。遊びが大好きな子ども、とにかく活動に没頭できる子ども、何事も自ら貪欲に楽しもうとする子ども、いつも頭の中にいろいろな「はてな？」が浮かび上がってくる子ども、次々といろいろなアイデアを出してくる子ども、・・・そんな、子どもたちかもしれません。

総合的な学習の時間にも、同じようなことが言えます。生活経験豊かな子ども、こだわりをもった物知りの子ども、リーダーシップやフォロワーシップを上手に発揮できる子ども、ときにはマネジメント能力すら発揮できる子ども、物事の段取り等を考えることのできる計画性のある子ども、人とかわることが大好きだったり得意だったりする子ども、心優しい子ども、試行錯誤を繰り返すことのできる粘り強い子ども、・・・そんな、子どもたちの生き生きとした姿を見ると、とてもうれしくなります。

<あとがき>

こんな思いで、頑張って
22日(火)を迎えようとしております。

